

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道 150 年事業 基本方針

平成 28 年 10 月

北海道 150 年道民検討会議

- もくじ -

「北海道 150 年」について	… 1
1 基本的な考え方	… 2
2 事業の概要	… 3
(1) 事業の構成	… 3
(2) 実施時期	… 3
(3) 展開エリア	… 3
(4) 個別事業の概要	… 3
I. 記念セレモニー	… 4
II. 北海道みらい事業	… 5
III. 関連推進施策	… 7
IV. 「北海道みらい事業」の支援	… 8
V. P R	… 9
3 推進体制（実行委員会）	… 10
4 スケジュール	… 11
北海道 150 年道民検討会議設置要綱	… 12
北海道 150 年道民検討会議の開催状況	… 14
北海道 150 年事業に係る道民意見等	… 15
「北海道みらい日誌」最優秀賞受賞作品	… 16

「北海道 150 年」について

2018 年（平成 30 年）に、本道が「北海道」と命名されてから 150 年目の節目を迎えます。

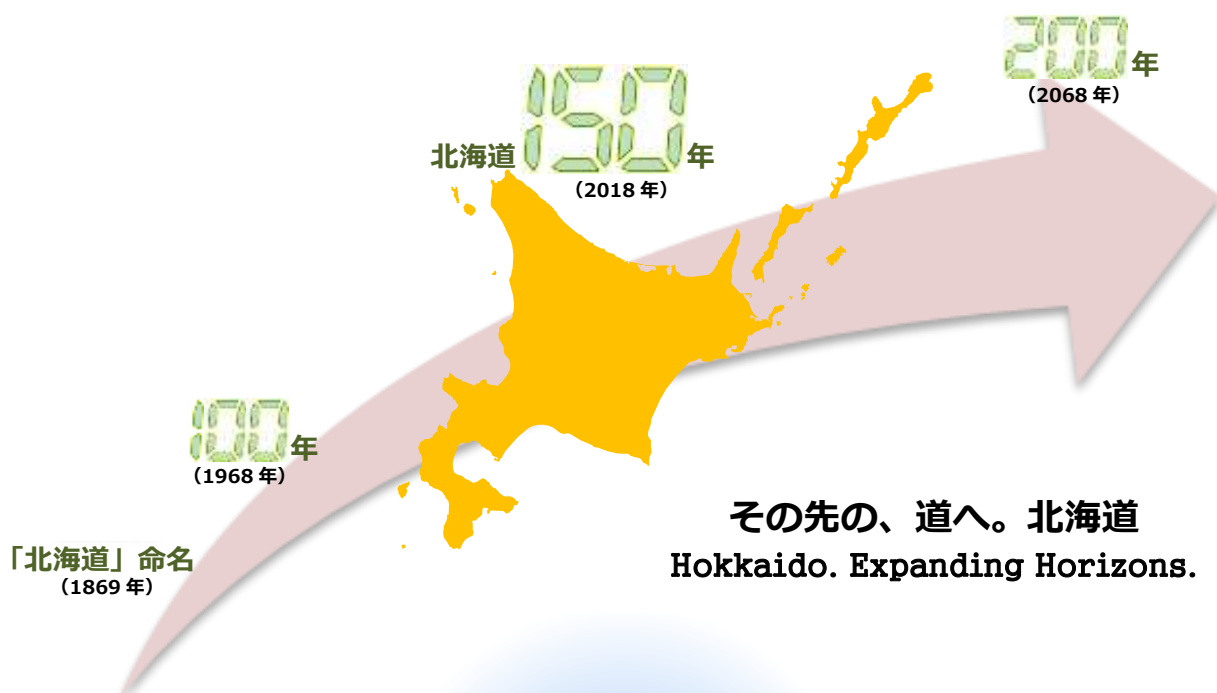
本道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、1869 年（明治 2 年）の 7 月 17 日に、松浦武四郎が「北加伊道」を含む 6 つの名前を候補とする意見書を明治政府に提案し、その後 8 月 15 日に、太政官布告によって「北海道」と命名されました。

キーパーソン「松浦武四郎」

- ・ 蝦夷地の名称について明治政府に対して「北加伊道」という名前を提案した、いわば北海道の名付け親です。
- ・ 明治政府に登用されて、開拓使の長官、次官に次ぐ判官に任じられ、その功績によって従五位に叙せられますが、北海道の開拓政策をめぐって反発し、わずか半年で政府の職を辞するとともに従五位も返上しました。
- ・ 武四郎が残した「天塩日誌」では、アイヌの古老から「"カイ"という言葉には、"この地で生まれたもの"という意味がある」と教えられたとの記述があり、「北加伊道」の「加伊」には、この意味が込められているといわれています。
- ・ 蝦夷地調査の際には、アイヌの人々に道案内をお願いし、寝食を共にするなどアイヌの文化に深く触れるとともに、その生活や文化を紹介するために、多くの記録を残しました。



写真提供：松浦武四郎記念館



この基本方針は、2018 年（平成 30 年）に行う北海道 150 年事業の検討・実施に当たった考え方や枠組みをまとめています。北海道民の皆様などに対して、本事業の趣旨等を理解していただき、参加していただけるよう留意し作成しました。

個別事業の内容については、これまでに事務局に寄せられた意見、提言等を参考とするなどして、今後、設立が予定されている実行委員会や様々な実施主体が検討・準備を進めていくこととなります。

1 基本的な考え方

基本理念

縄文文化やアイヌ文化をはじめとする本道独自の歴史や文化、国内外に誇る豊かな自然環境は、かけがえのない道民の精神的豊かさの源です。

本道が「北海道」と命名されてから150年目となる2018年(平成30年)を節目と捉え、積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体など様々な主体が一体となってマイルストーン(=通過点の節目)として祝うとともに、未来を展望しながら、互いを認め合う共生の社会を目指して、次の50年に向けた北海道づくりに継承します。

また、道民一人ひとりが、新しい北海道を自分達の手で創っていく気概を持ち、北海道の新しい価値、誇るべき価値を共有し、国内外に発信することにより、文化や経済など様々な交流を広げます。

テーマ

基本理念を踏まえたテーマを共有し、北海道150年事業を実施します。

✓ 北海道151年目の新たな一歩を踏み出す

北海道のこれまでの歩みを見つめ直し、未来を展望しながら、道民一人ひとりがそれぞれの立場で新たな一歩を踏み出します。

✓ 先人から受け継いだ財産を次の世代につなぐ

縄文文化やアイヌ文化などの歴史や芸術・文化に加え、豊かな自然環境や産業技術など、先人から受け継いだ貴重な財産を次の世代に引き継ぎます。

✓ “Hokkaido”の多様な魅力を世界に広げる

Hokkaidoの多様な魅力を世界に発信し、道民と北海道を愛する世界中の人たちの様々な交流を広げます。

基本姿勢

記念事業の検討、推進に当たっては、次の姿勢で取り組みます。

未来志向 「世界の中の北海道」の視点で未来の姿を見据えます。

価値創造 北海道の可能性を見つめ直し、新しい価値をつくり出します。

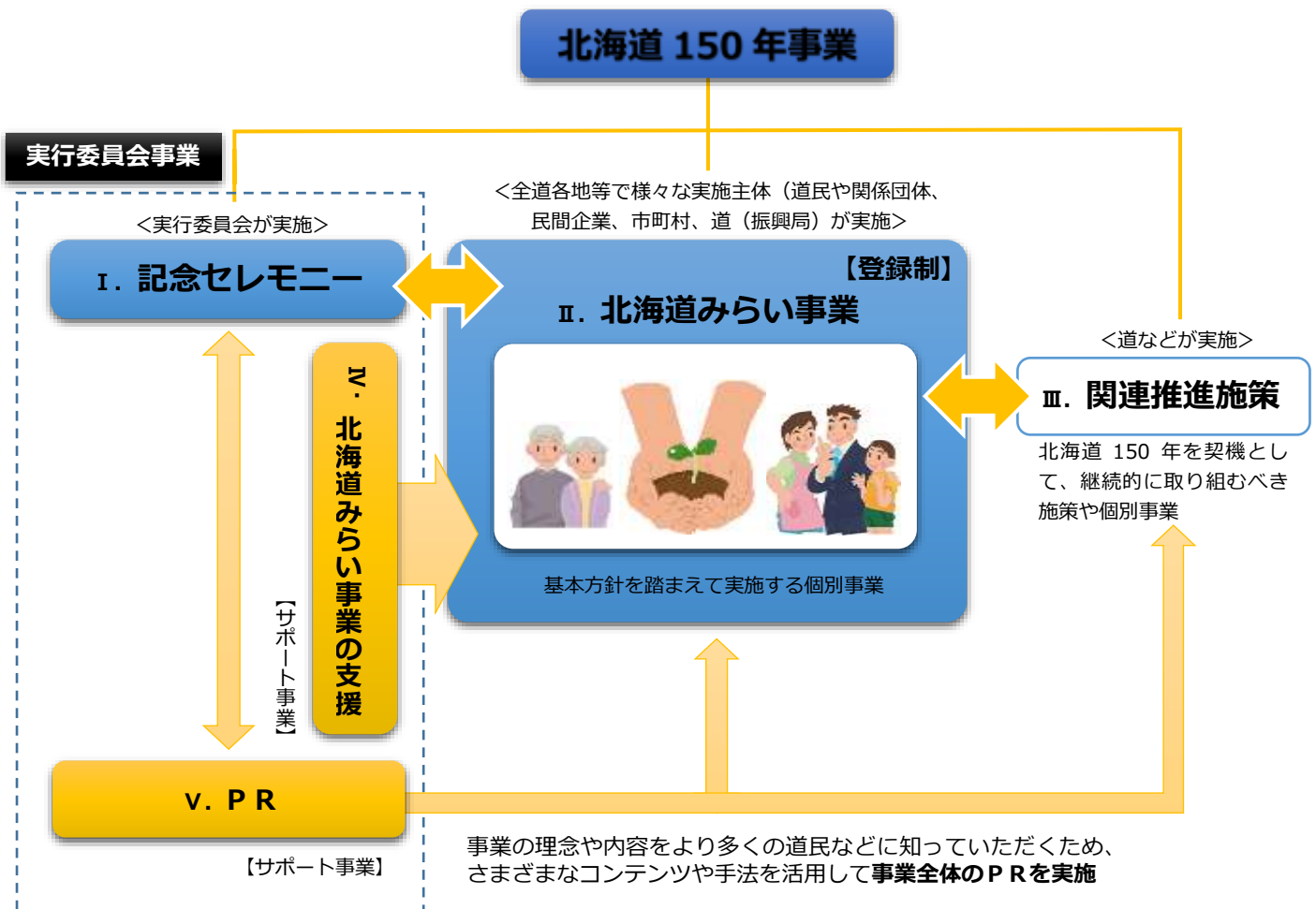
道民一体 北海道を愛する多くの皆さんの参加により、北の大地北海道を盛り上げます。

2 事業の概要

(1) 事業の構成

北海道 150 年事業を構成する個別事業は、実施主体別に、「記念セレモニー」と「北海道みらい事業」に分類しています。

また、これらをサポートするため、「北海道みらい事業の支援」や「PR」を行うとともに、北海道 150 年を契機として継続的に取り組むべき施策などを「関連推進施策」として位置づけます。



(2) 実施時期

原則として平成 30 年 1 月～12 月とします。

（事業終了が平成 31 年以降となる個別事業を含みます）

(3) 展開エリア

北海道を中心としながら道外での実施も検討します。また、その実施効果は全道及び国内外に波及することを期待しています。

(4) 個別事業の概要

個別事業は、「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨を踏まえ、事業の種類毎に次のとおり実施します。

I. 記念セレモニー

北海道 150 年を象徴する記念セレモニーや関連する企画等について、民間企業や団体等の事業参画を得るなどしながら、プロジェクトチーム※方式で実施します。

※個別事業（単独又は複数）の事業計画を作成し実施するチーム

<実施主体>

北海道 150 年事業実行委員会（仮称）プロジェクトチーム（道、団体、民間企業 等）

<実施時期>

平成 30 年 4 月～夏頃
（記念セレモニーは夏頃の実施を想定）

<事業費>

- ・実行委員会予算（道民などからの寄附、負担金及びその他の収入）
- ・民間企業等の事業参画の活用
- ・クラウドファンディングの活用 等

<個別事業例（今後検討）>

●記念セレモニー

- ・記念式典
- ・アイヌの音楽や舞踊の披露
- ・お祭り（北海道版東北六魂祭 等）
- ・北海道のうたの披露、北海道の偉人やキーパーソンの表彰 等

<関連する企画等>

●北海道の歴史・文化・活力の発信

- ・アイヌの音楽や舞踊の披露【再掲】
- ・お祭り（北海道版東北六魂祭 等）【再掲】
- ・北海道のうたの制作、披露【再掲】
- ・道外（海外含む）との連携
- ・バーチャル道民※との交流 等

※「道民倍增計画」（インターネットにより、北海道とつながり、応援してくれるフォロワーに、地域のイベントや観光、ビジネスの情報を継続的に発信することで、交流人口や将来の実質的な人口増を目指すもの）によって獲得した、北海道とつながり、応援してくれるフォロワー

●フォーラム・シンポジウム

（テーマの例）

- ・北海道の未来を語る
- ・松浦武四郎の足跡とアイヌ文化を探る
- ・歴史から未来を学ぶ（テーマを設定したシリーズもの） 等

●「北海道」の見つめ直しと継承

- ・北海道の偉人の選定、表彰（道民投票、記念冊子作成 等）
- ・北海道の新たな価値を伝えるキーパーソン 150 人の選定、表彰
- ・北海道の一番星事業（市町村の宝物や価値の発掘、マップ作成） 等

など

※アンケート調査等でご提案があった事業アイデア等についても検討します。

Ⅱ. 北海道みらい事業

「北海道 150 年事業基本方針」の趣旨を踏まえて、様々な主体が実施する事業です。実行委員会が行うサポート事業（P8 のⅣ.「北海道みらい事業」の支援、P9 のⅤ. PR）の対象となります。

<参画方法>

各実施主体は、個別事業の計画（案）を実行委員会に登録した上で、事業を実施します。

<登 録>

登録の要件等については、実行委員会が定めます。（法令等に違反するものや公の秩序又は善良の風俗を害するものなどは対象外とします。）

登録後は、ロゴマークが使用できます。

<実施主体>

道民、関係団体、民間企業、市町村、国の出先機関、道（振興局）等
（複数の実施主体の連携も可能です）

<実施時期>

平成 30 年 1 月～12 月（事業登録の募集は平成 29 年 4 月～9 月頃）

<事 業 費>

- ・各事業実施主体の自己資金
- ・実行委員会が実施するサポート事業の活用 等

<個別事業例（今後検討）>

<道民検討会議の議論等を踏まえた取組>

●松浦武四郎関連事業

- ・北海道博物館における特別展
- ・松浦武四郎記念館（三重県松阪市）との交流事業
- ・舞台化・映画化・ドラマ化 等

●「北海道」の見つめ直しと継承

- ・150 年データベース、アーカイブス（印刷物、冊子、映像等）の構築
- ・偉人にまつわる映画・ドラマ等の活用
- ・北海道や各地域の歴史に関わる子ども向け資料の作成
- ・北海道の発展を支えた政策史の作成
- ・開拓期の歴史（お雇い外国人や移住者の視点、暮らしぶり等）の情報発信
- ・地域のお祭り等の活用
- ・知床世界自然遺産地域など豊かで優れた自然・生物多様性の保全・管理 等

●文化・芸術等の発信、文化触れ合い事業

- ・道立美術館における特別展
- ・道立美術館や周辺の文化施設等[※]を活用したイベント 等

[※]道立近代美術館、道立三岸好太郎美術館、知事公館 等

●アイヌ文化の発信

- ・アイヌ PRODUCTS[※]の発信
 - ・アイヌ文様のTシャツを活用したウェルカム事業
 - ・海外メディアの招聘事業 等
- ※アイヌの伝統工芸と現代的なデザインを融合した新たなブランド商品

●世界中の北海道ファンの獲得

- ・道民倍増計画[※]の推進
- ※インターネットにより、北海道とつながり、応援してくれるフォロワーに、地域のイベントや観光、ビジネスの情報を継続的に発信することで、交流人口や将来の実質的な人口増を目指すもの

●スポーツイベントとの連携事業

- ・プロスポーツチームとの連携
- ・大規模スポーツイベントとの連携 等

●一次産業関連事業

- ・食育を通じて一次産業（生産者）の大切さを学ぶ取組
- ・女性が活躍できる環境づくり
- ・地域資源を活かした6次産業化の取組 等

●北海道の未来を担う新しい技術の活用

- ・ICT、AI（人工知能）やVR（仮想現実）等の技術を活用した取組 等

●北海道価値の再発見事業

- ・北海道遺産プロジェクトの活性化
- ・日本遺産の認定に向けた取組
- ・市町村の名前、由来に関する情報発信 等

●国際交流関連事業

- ・姉妹・友好提携地域等との重層的な交流 等

<その他の想定される取組>

- 食・観光の磨き上げ事業
- 北海道の産業を支える研究、技術展
- 北の縄文関連事業
- 北方領土関連事業

<冠事業（協賛事業）>

- 各種スポーツ・文化事業
- 各種イベント事業
- 植樹・育樹など木育事業

など

※アンケート調査等でご提案があった事業アイデア等についても検討します。

Ⅲ. 関連推進施策

北海道 150 年を契機として継続的に取り組むべき施策や個別事業に関して、道などが実施する取組です。

<実施主体>

道 等

<実施時期>

平成 30 年 1 月～12 月（終期は事業ごとに異なります）

<施策・個別事業例（今後検討）>

- 「北海道」の見つめ直しと継承
 - ・ 「新北海道史^{※1}」の後継史の編さん
 - ・ 道庁赤れんが庁舎のリニューアル事業
 - ・ 道立美術館^{※2}と道内各地域の美術館等との連携による取組の推進
 - ・ 三岸好太郎美術館の機能拡充及び知事公館の活用 等

※1：北海道百年の記念事業として、昭和 45 年までの歴史を記録。昭和 56 年までに全 9 巻を刊行
※2：道立近代美術館、道立三岸好太郎美術館 等
- 北海道百年記念施設[※]のあり方検討
 - ・ 今後のあり方検討及び取組の実施
 - ・ 民族共生象徴空間（白老町／平成 32 年度一般公開を目標）との連携 等

※北海道博物館、北海道百年記念塔、北海道開拓の村
- 人材育成事業（北海道未来人財応援基金(仮称)の創設)
 - ・ グローバルに活躍する人材の育成
 - ・ スポーツ分野で活躍する人材の育成
 - ・ 芸術分野で活躍する人材の育成 等
- 東京オリンピック・パラリンピック等を視野に入れた“Hokkaido”の魅力 PR
 - ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開会式などのプログラムにおけるアイヌ民族の文化発信 等
 - ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの波及効果の取り込み
 - ・ 冬季オリンピック・パラリンピックの誘致推進

など

IV. 「北海道みらい事業」の支援【サポート事業】

「北海道みらい事業」登録事業の準備・実施について、実施主体の提案・相談等を受けて、実行委員会が支援を行います。

<実施主体>

北海道 150 年事業実行委員会（仮称）プロジェクトチーム（道 等）

<実施時期（支援対象時期）>

平成 29 年 4 月～

<支援の概要（今後検討）>

事業計画（案）や提案内容を踏まえて、実行委員会に設置するプロジェクトチームにおいて、支援の内容等を検討・実施します。



<事業費>

- ・各種支援制度の活用
- ・民間企業等の事業参画の活用 等

V. PR【サポート事業】

イメージコンテンツの活用や様々な手法により、事業PRを効果的に行い、北海道全体で気運が高まり、道民の皆様の心に残る事業となるよう努めます。

<実施主体>

北海道 150 年事業実行委員会（仮称）プロジェクトチーム（民間企業 等）

<イメージコンテンツ>

●ロゴマーク

事業に参加する方々の一体感を表すシンボルとして、基本理念や事業の考え方を表現するロゴマークを作成し、キャッチフレーズとあわせて、事業のPRに活用します。

●キャッチフレーズ

その先の、道へ。北海道

Hokkaido. Expanding Horizons.

北海道には様々な可能性が広がっていること、そして、北海道が未来や世界に積極的に進んでいこうとする動きを感じさせるとともに、北海道らしい風景をイメージさせ、道外や海外の方々に対し北海道に“ぜひ来てください”と呼びかけるフレーズでもある「北海道の新たなキャッチフレーズ」を使用します。



（仮イメージ／公募中）

<PRの手法>

イベントの活用	お祭りやスポーツイベントなど、大規模イベントでの啓発活動等を行います。
インターネットメディアの活用	ホームページによる資料等の情報提供、SNSによるコミュニケーションを通じて情報を発信します。
マスメディアとの連携	「北海道 150 年事業」をより多くの道民に知っていただけよう、様々なマスメディアと連携します。
民間の取組との連携	発信力のある民間企業の取組と連携して、その取組を通じて情報を発信します。

※ 世代ごとに、北海道 150 年事業に対する意識や関心事が異なることなどに留意しながら、多くの道民の皆様に、自分に関わりのあることとして受けとめていただけるよう努めます。

<PR強化期間>

平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月をPR強化期間とし、集中的にPR活動を行います。

<事業費>

- ・実行委員会予算（道民などからの寄附、負担金及びその他の収入）
- ・民間企業等の事業参画による負担 等

3 推進体制（実行委員会）

平成 28 年 11 月頃に設立する「北海道 150 年事業実行委員会（仮称）」は、事業毎のプロジェクトチーム※をつくり、北海道みらいメンバーシップによる民間企業や団体等の支援や事業参画等の協力を得ながら、各事業を推進します。

※個別事業（単独又は複数）の事業計画を作成し実施するチーム

（1）活動内容

- ① 事業計画の作成
- ② 主催事業（記念セレモニー等）の企画・実施
- ③ 北海道みらい事業の登録及び支援など事業全体の調整
- ④ 北海道 150 年事業全体の P R 等

（2）体制等







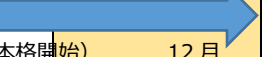




事業の趣旨に賛同する団体や関係機関等の代表者等で構成することとします。

役員等	<p>会 長：北海道知事 会長代行：北海道大学総長 副 会 長：北海道経済連合会会長、北海道商工会議所連合会会頭 等 理 事：団体、関係機関 等 （北海道 150 年道民検討会議委員を務める団体 等） 委 員：団体、関係機関 等 ※ その他、顧問、監事を置く</p>
組 織	<p>総 会：事業計画や予算の承認等 役 員 会：実行委員会の運営に関することの審議等 運 営 会 議：個別事業の企画、検討及び必要な調整 プロジェクトチーム：個別事業（単独又は複数）の計画の作成・実施</p>
北海道みらいメンバーシップ	個人、民間企業及び団体等が参加し、実行委員会の活動を支援する制度（寄附、ボランティア、事業参画等）
体 制	
事 務 局	道、北海道経済連合会及び北海道商工会議所連合会

（3）事業費等

実行委員会が実施する事業の経費は、道民などからの寄附、負担金及びその他の収入を充てることとします。

4 スケジュール

項目 / 年 (暦年)	H28年	H29年	H30年	H31年～
I. 記念セレモニー 【実施主体】 実行委員会プロジェクトチーム			 4月～夏頃 記念イベントは夏頃	
II. 北海道みらい事業 【実施主体】 道民、関係団体、民間企業、市町村、 道（振興局）等		事業登録 連携提案受付 (4月～9月頃)	 1～12月	
III. 関連推進施策 【実施主体】 道 等			 1～12月	(終期は事業により異なる)
IV. 北海道みらい事業の支援 【実施主体】 実行委員会プロジェクトチーム		 4月～（PR等）、	 1～12月（各種支援）	
V. PR 【実施主体】 実行委員会プロジェクトチーム		 4月～（本格開始）	 12月  10～3月（強化期間）	
北海道みらい メンバーシップ (I、IV及びV関係)	(サポーター) (パートナー)	 募集、寄附 (H29年1月～H30年12月)  調整・協議、募集 (H29年1月～9月)	 事業参画 (H29年4月～H30年12月)	

北海道 150 年道民検討会議設置要綱

第1 目的

2018年(平成30年)の北海道命名150年目を節目とする記念事業の実施に向けて、広く道民の意見を聴きながら、事業の基本方針を策定するため、「北海道150年道民検討会議」(以下「会議」という。)を設置する。

第2 検討事項

会議は、第1の目的を達成するために、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 事業の基本的な考え方
- (2) 主な事業の内容
- (3) 事業のPR方法
- (4) 推進体制
- (5) その他必要な事項

第3 委員

- (1) 会議は、別表1に掲げる委員で構成する。
- (2) 委員が都合により会議に出席できないときは、委員が指名する者が、その職務を代理することができる。この場合、出席できない委員が事前に事務局に代理者の氏名を通知しなければならない。

第4 委員長

- (1) 会議に委員長を置く。
- (2) 委員長は、委員の互選により選出する。
- (3) 委員長は会議を代表し、会務を総括する。
- (4) 委員長がやむを得ない事情等により出席できない場合は、委員長が指名する委員がその職務を代理する。

第5 開催の方法

- (1) 会議は、委員長が招集する。
- (2) 会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- (3) 会議は、公開で開催する。
- (4) 会議には、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

第6 北海道みらいワーキング

- (1) 基本方針の策定に資する事業アイデアや実施手法等について検討を行うため、会議内に「北海道みらいワーキング」(以下「ワーキング」という。)を置く。
- (2) ワーキングは、別表2に掲げる委員で構成する。
- (3) ワーキングに、会務を総括する座長を置く。
- (4) 座長は、会議の委員の中から委員長が指名する。
- (5) その他ワーキングに関し必要な事項は、座長がワーキングに諮って定める。

第7 事務局

会議の事務局は、北海道経済連合会、北海道商工会議所連合会及び北海道の共同で担い、三者において適切に庶務を分担し、処理する。

第8 委員長への委任

前条までに定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附則

この要綱は、平成28年6月10日から施行する。

(別表1)

北海道150年道民検討会議委員名簿

※五十音順に掲載

所属・役職	氏名
北海道博物館 館長	石森 秀三
クリプトン・フューチャー・メディア(株) 代表取締役社長	伊藤 博之
サッポロビール(株) 北海道本社代表	生方 誠司
(株)日本旅行北海道 代表取締役社長	落合 周次
(公社)北海道アイヌ協会 理事長	加藤 忠
北海道市長会 会長(伊達市長)	菊谷 秀吉
北海道大学公共政策大学院 特任教授	小磯 修二
西條産業(株) 代表取締役社長	西條 文雪
(公財)北海道青少年育成協会 会長	佐々木 亮子
(株)クリエイティブオフィスキュー 代表取締役社長	鈴木 亜由美
北海道経済連合会 会長	高橋 賢友
北海道知事	高橋 はるみ
(一社)北海道商工会議所連合会 会頭	高向 巖
(株)北海道日本ハムファイターズ 代表取締役社長	竹田 憲宗
北海道町村会 会長(白糠町長)	棚野 孝夫
北海道農業協同組合中央会 会長	飛田 稔章
(株)北海道新聞社 専務取締役	三好 則男
北海道大学 総長 【委員長】	山口 佳三

(計18名)

(別表2)

北海道みらいワーキング委員名簿

※五十音順に掲載

所属・役職	氏名
【座長】北海道150年道民検討会議の委員長が指名する者	
北海道大学公共政策大学院 特任教授	小磯 修二
小樽商科大学商学部社会情報学科 准教授	大津 晶
(株)北海道バスケットボールクラブ 代表取締役社長	折茂 武彦
作家	河崎 秋子
北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツビジネス専攻 専任講師	曾田 雄志
(一社)木古内公益振興社 観光コンシェルジュ	津山 睦
北海道ガーデン街道協議会 会長	林 克彦
男山(株) 取締役	山崎 五良
北海道副知事	山谷 吉宏
(株)桐光クリエイティブ 代表取締役社長	吉田 聡子

(計10名)

北海道 150 年道民検討会議の開催状況

◆第 1 回北海道 150 年道民検討会議

(H28.6.10 開催)

- ・ 会議設置の趣旨について
- ・ 北海道 150 年事業基本方針及び今後の進め方について
- ・ 道民等の意見募集の実施について
- ・ 北海道みらいワーキングの設置について

◇第 1 回北海道みらいワーキング

(H28.6.20 開催)

- ・ 会議設置の趣旨について
- ・ 北海道 150 年事業基本方針及び今後の進め方について
- ・ 道民等の意見募集の実施について
- ・ 事業 P R について

◇第 2 回北海道みらいワーキング

(H28.7.20 開催)

- ・ 北海道 150 年基本方針（素案）について
- ・ ロゴマーク及びキャッチフレーズについて
- ・ 今後の進め方について
- ・ 「北海道みらい日誌」の審査について

◆第 2 回北海道 150 年道民検討会議

(H28.8.8 開催)

- ・ 「北海道みらい日誌」について（最優秀賞受賞者の表彰）
- ・ 北海道 150 年事業基本方針（原案）について

◇第 3 回北海道みらいワーキング

(H28.9.1 開催)

- ・ 北海道 150 年事業基本方針（原案）について
- ・ 今後の進め方について

◆第 3 回北海道 150 年道民検討会議

(H28.10.19 開催)

- ・ 北海道 150 年事業基本方針（案）について
- ・ 北海道 150 年事業実行委員会（仮称）について

北海道 150 年事業に係る道民意見等

1 アンケート調査

内 容	事業の基本的な考え方についての意見や、事業アイデア等
期 間	平成 28 年 6 月 11 日～10 月 19 日
方 法	インターネットで無記名による選択及び記入式回答による意見提出
提 出 数	120 人

2 北海道の未来についての作文<「北海道みらい日誌」>

内 容	北海道の未来の姿などについての道内在住の満 15 歳以上 25 歳以下の方（平成 28 年 4 月 1 日現在）の思い
期 間	平成 28 年 6 月 11 日～7 月 19 日
方 法	800 字程度の作文を提出（3 テーマから 1 つ選択） 各テーマの最優秀作品は、第 2 回道民検討会議（平成 28 年 8 月 8 日）において、本人から発表
応 募 数	390 人
表 彰 者 【最優秀賞】	○テーマ：生活・安心 「顔を上げて・・・」 中川 翔真さん（札幌稲雲高校 1 年） ○テーマ：経済・産業 「将来の夢 ～私、農家になりたい～」 坪井 古都未さん（富良野緑峰高校 2 年） ○テーマ：人・地域 「武四郎の夢」 山岸 志穂さん（札幌国際情報高校 2 年）

3 基本方針への意見

内 容	基本方針（原案）についての道民等の意見
期 間	平成 28 年 8 月 9 日～8 月 31 日
方 法	郵送、FAX、電子メール及びインターネットで記名意見提出
提 出 数	11 人、4 団体（延べ意見数 20 件）

4 その他

民間有志団体「札幌なにかができる経済人ネットワーク」が、168 件の事業アイデアを道などに提案（平成 28 年 5 月 13 日）
事業アイデア等について意見交換の実施（道） <ul style="list-style-type: none"> ・市町村や各地域の観光団体、農業団体等（平成 27 年 9 月～12 月） ・釧路公立大学、帯広柏陽高校、更別農業高校の学生（平成 27 年 10 月～11 月）

「北海道みらい日誌」最優秀賞受賞作品

テーマ「生活・安心」

顔を上げて・・・

北海道札幌稲雲高等学校 1年 中川 翔真

北の大地「北海道」に住む私が今、感じていること。それは北海道愛だ。

私は、大自然の中で味わう涼しい風が大好きだ。歩道に停まっている車の排気ガスよりも……。私は、山道をドライブしている時に見かける狐の愛らしさが大好きだ。動物園で見るコンクリートの上のレッサーパンダよりも……。田舎で立ち寄るフリーマーケットが好きだ。右手に持つスマホで検索するネットオークションよりも。

今、グローバル化が急進している。それは、大都会だけではなく、ここ北海道でも同様だ。私の地元札幌の駅で周囲を見渡すと、顔を上げている人はほとんどいない。皆、一様に首を下げてスマホの画面に夢中だ。若者だけではない。子どもも大人も年配者も、目の前の半径1メートルしか見ていない。

顔を上げて見てみよう。北海道は広い。北海道の大きさは私達の誇りだ。だからこそ私は、大好きな自然溢れる北の大地を、この広い北海道全体で守っていかなければならないと思っている。街中には、スーパーやコンビニが全国共通の様相で目に入る。しかし、北海道発祥のコンビニエンスストアや菓子メーカーや家具店が地産地消を売りにしているように、北海道には北海道の生きる道があると思う。広い広いこの大地をしっかりと見つめてみよう。利便性ばかり追求するのは道産子らしくない。広い大地で培われた大きな度量で道産子一人一人がつながりあえたら、北海道の魅力はもっともっと日本全国、そして世界へと発信できるはずだ。

150年の歴史は浅いのかも知れない。それでも、ここ北海道が目指す「みらい日誌」には、相も変わらず、徒歩と車、野生動物と飼育動物、便利と不便がうまく共存した姿を描いてみたい。10年後も50年後も、私達の隣には当たり前のように大自然が息づいていますように。謙虚な気持ちで北の大地とともに生きていきたい。

テーマ「経済・産業」

将来の夢 ～私、農家になりたい～

北海道富良野緑峰高等学校 2年 坪井 古都未

「農家ってさ、汚れるし、儲からないし、疲れる。それに、虫だって気持ち悪いじゃん。農家なんてやっていても良いことなんてないよ。」これは私が小学生の頃、友達に言われた言葉です。この言葉を聞いたとき、とても腹が立ったことを覚えています。私の両親は中富良野で農業を営んでおり、私も小さいころから作業を手伝い、両親の働く姿を見ていたため、そんな友人の言葉が嫌でした。農業をやってみたい、父の代で終わらせたくない。そして、「皆に農業をもっと知ってもらいたい。」と考えはじめました。

そんな思いから、富良野緑峰高校に入学し学んだことが3つあります。1つ目は、農業は作物を生産する

だけではない。加工・販売をすることも大切だ、ということです。今まで私は「作物を栽培する仕事が農業だ。」と思っていましたが、販売会や食品製造の授業を通して、農業に対する見方が変わりました。

2つ目に、以前の私は、「農業は、生産する技術を学べば良い」と思っていましたが、その生産する技術を支える土台として、土壌、機械、肥料の知識も必要であり、今後は、経営についても大切だと学びました。

3つ目は、先生から教えて頂いた、オーストラリアで農業が人気な理由で、「大好きな家族と1日中一緒にいられるから。」ということ。私は、この考え方が、前向きで素敵だと思いました。物の見方や考え方は、人それぞれで、それまでの農業に対する見方が変わりました。

しかし、まだまだ男性のイメージが強い農業ですが、今、女性の農業者も増えており、その1人に、安丸千加さんがいます。安丸さんは、曾祖父の代から続く上富良野のメロン農家で、富良野緑峰高校のOGであり、道立農業大学校を卒業し、20歳で就農しました。現在は、「はらぺ娘」という、女性農業者によるネットワークの代表も務めており、その活動は、昨年TVドラマ化されました。私は、こんな身近に、農業に取り組んでいる女性がいた事に、とても嬉しくなりました。そして先日、専攻班活動で、安丸さんとお話できる機会があり、心に残った事があります。まずは、「農家をやっている、女性だから困ったことは？」という質問に、迷うことなく、「力仕事です。」と答えたことです。「力では父にかないません。それ以外で困ったことはないですよ。」女性だから困ることは沢山あるだろう、と考えていた私は、自分も知らず知らずのうちに農業を男性の仕事と思い込んでいたことに気が付かされました。その後は、農業の魅力や親子対象食育講座で野菜嫌いの子が、取れたてのピーマンを美味しそうに丸かじりした話。そして、進路相談にまで乗っていただき、素敵な時間があっという間に終わり、最後は「今はもう、性別で仕事を選ぶ時代じゃない。ぜひ、頑張ってください。」と応援していただきました。これらの話を聞き、女性農業後継者は珍しいものではないと感じ、私も安丸さんの様に、自分で栽培した作物の良さを、消費者に伝えられる農家になりたいと強く思いました。そこで、私は、将来に向けて2つのプランを考えました。1つ目は、消費者に自信を持って販売できる「安心・安全」な農産物を目指した、減農薬栽培です。確かに手間もかかりますが、田んぼで蛙が鳴いている風景も、土の中にミミズがいる事も趣があり、その素朴な風景も農業の魅力とすることが出来ると思います。また、以前授業で、有害生物の防除方法は、大きく4つあることを学びました。農薬を使う化学的防除。天敵利用などの生物的防除。マルチや防虫ネットを使う物理的防除。輪作などの耕種的防除です。私は、化学的防除以外の方法を上手に利用し、さらに、生態系に存在する天敵生物などの自然制御機能を有効に活用し、経済的に被害が生じないレベルに発生を抑える、総合的有害生物管理、通称IPMという考え方を取り入れたいと思います。2つ目は、生産だけでなく、6次産業化にも挑戦します。では、6次産業化に大切なことは何だろうと考えました。加工品を作る知識や技術もそうですが、一番はやはり、美味しい原材料を使うことであり、美味しい農産物を生産する技術です。また、「多くの人に農業のことを知ってもらいたい。」との思いから、6次化することで多くの人と関わる機会ができ、その人たちに「農業って、こんないいところだってあるんだよ。」と、農業に対するイメージを少しでもプラスに変えていきたいです。

将来この北海道の大地で農家になりたい。この夢の実現に向けて、残された学校生活で勉強を頑張りたいと思います。授業はもちろん、農業以外の部活動や普段の生活も勉強だと考えます。沢山のひとと交流することで、多種多様な意見や考え方を知り、受け入れ、自分の物の見方を変え、多くの視点を持つことも大切だと思えます。

そして、高校卒業後は、さらに高い技術と、農業経営に必要な知識を学ぶために、道立農業大学校への進学を考えています。

将来、中富良野に戻り、4代続く我が家の農業を父から受け継ぎ、いつの日か、私の子どもが友達から「農業って、すごく良い仕事だよ。」と言ってもらえる農家になります。

武四郎の夢

北海道札幌国際情報高等学校 2年 山岸 志穂

「蝦夷地に北加伊道と名付けた。」これが私の知っていた松浦武四郎でした。しかし、武四郎について調べていくうちに、彼の功績はそれだけではないことがわかりました。

武四郎は、若い時から日本中を旅していました。蝦夷地探査には特に多くの時間を費やし、アイヌ民族と交流しました。彼が持っていたチャレンジスピリットや多様性への理解からは、現代の私たちにも学ぶべきものがあります。

グローバル化が進む今、国際社会で活躍できる人材「グローバルシチズン」の育成が求められています。より高度な語学教育や情報教育の必要性が叫ばれていますが、本当に必要なのは、武四郎のような志を持ち、それを実現しようとする勇気ある「人」ではないでしょうか。

知らない土地に臆せずに赴こうとする、チャレンジスピリットは世界に挑むうえで必要です。蝦夷地という「異国の地」で、アイヌ民族という「異文化の人々」と打ち解けるコミュニケーション能力は、異国間の交渉に必須です。

何よりも一番大切なのは多様性への理解でしょう。武四郎は、アイヌ民族と交流していくにつれ、自然や命を大切にアイヌ文化を尊敬するようになりました。当時は、アイヌ文化を遅れた文化とみなす風潮があり、武四郎の考えが理解されることはありませんでした。

様々な民族、宗教、文化が入り混じっているこの世界、自らの価値観を押し付け、その他の考えを否定する人が少なくはないように思われます。しかし、このような差別的な考えでは、相手を見下し、全うに人間関係築くことなどできません。だからこそ、多様性への理解が不可欠なのです。

「アイヌ民族・文化の保護と尊厳の回復」

北海道開拓の判官であった武四郎が持ち続けた夢は、未だ実現しているとはいえません。しかし今後、武四郎のような志と実行力を持った若者が次つぎと現れれば、近い将来、彼の夢は実現されることでしょう。そして、北海道からグローバルシチズンと呼べる多くの人々が世界に向けて羽ばたき、北海道の素晴らしさを各国の人々に伝え広めていくことも遠い未来の話ではないでしょう。



北海道 150 年道民検討会議事務局

北海道総合政策部政策局北海道 150 年事業準備室 (TEL : 011-204-5995)

北海道経済連合会企画総務グループ (TEL : 011-221-6166)

北海道商工会議所連合会総務部 (TEL : 011-241-6305)